

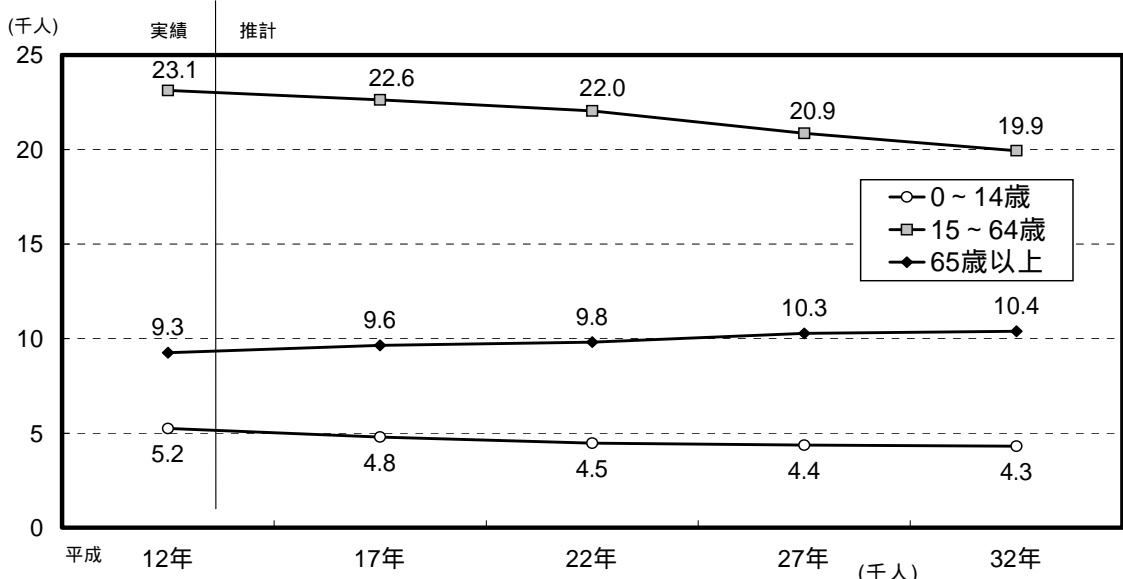
### 第3節 年齢別人口の見通し

平成12年の4町の年齢別人口は、0から14歳までの年少人口は約5千人、15歳から64歳までの生産年齢人口は約2万3千人、65歳以上の老齢人口は約9千人です。また、それぞれの割合は、年少人口割合13.9%、生産年齢人口割合61.5%、老齢人口割合24.6%で、老齢人口割合が年少人口割合を大きく上回る状況となっています。

今後は、少子・高齢化が進行するため、年少人口や生産年齢人口が伸び悩む一方で、老齢人口が増加することが予想されます。

その結果、新市の推計値では、10年後の平成27年では、年少人口は約4千人、生産年齢人口は約2万1千人、老齢人口は約1万人となり、それぞれ年少人口割合12.3%、生産年齢人口割合58.8%、老齢人口割合28.9%になることが予想されます。

図表 3-3 年齢別人口の見通し



	実績	推計			
	12年	17年	22年	27年	32年
総数	37.6	37.1	36.3	35.5	34.6
0～14歳	5.2	4.8	4.5	4.4	4.3
15～64歳	23.1	22.6	22.0	20.9	19.9
65歳以上	9.3	9.6	9.8	10.3	10.4

	(%)				
	実績	推計			
	12年	17年	22年	27年	32年
総数	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
0～14歳	13.9	12.9	12.3	12.3	12.4
15～64歳	61.5	61.0	60.7	58.8	57.6
65歳以上	24.6	26.0	27.0	28.9	30.0

(注) 四捨五入の関係上、内訳の合算値が合計と一致しない場合があります。

(資料) 総務省「国勢調査報告」、国立社会保障・人口問題研究所「都道府県別将来推計人口(平成14年3月推計)」